

健康ぷらざ

No.323

企画:日本医師会

胃は年一回、大腸は三年に一回

無症状でも内視鏡検査を受けましょう。

日本人のがん患者数の一位は胃、二位は大腸、三位は肺です。

しかし、死亡率を見ると一位は肺がんで、胃がんと大腸がんは、

手術により患者さんの約80%が治るため、死亡率は低くなっています。

胃がんも大腸がんも症状がないため、早期発見は定期検診以外にできません。

がんの発育速度の違いから、胃がんでは年一回、大腸がんでは三年に一回の

検査を受ければ、手遅れになることはまずありません。

早期に発見できれば、ほぼ100%治ります。

しかも、内視鏡的粘膜切除や腹腔鏡切除など、

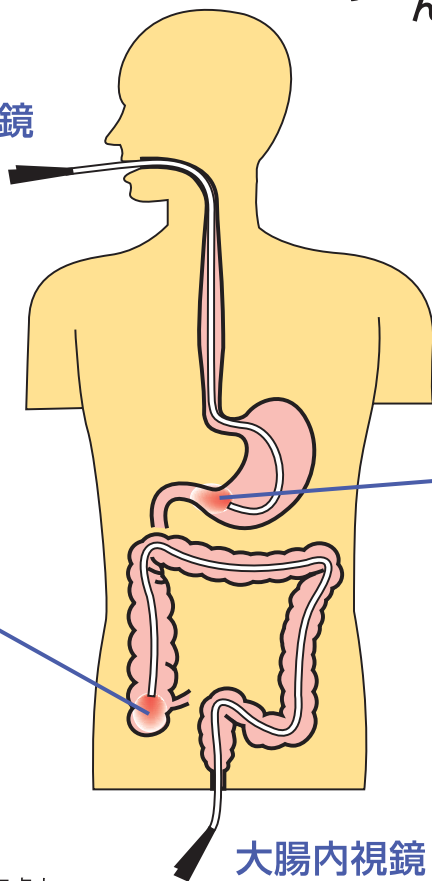
開腹手術ではない負担の少ない治療も可能です。

最近、経鼻内視鏡や麻酔法の進歩で、以前に比べ楽に検査ができます。

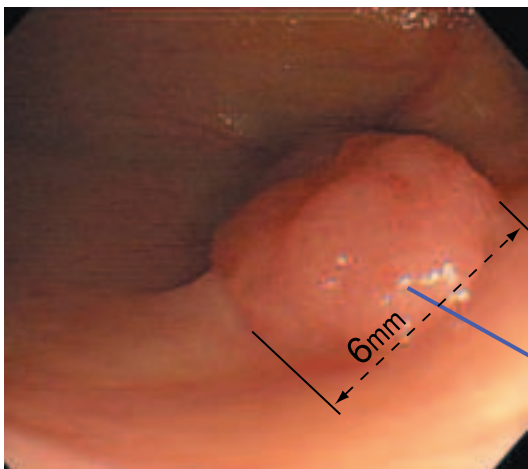
早期診断法と有効な治療法が確立されている胃がんや大腸がんで、手遅れにならないようにしましょう。



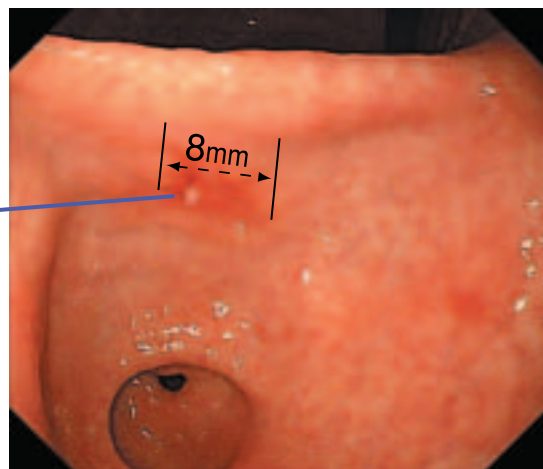
胃内視鏡



大腸内視鏡



じょうこうけつちょう
上行結腸のポリプ様早期がん
大腸内視鏡検査



い かく かん おう が た
胃角付近の陥凹型早期がん
胃内視鏡検査

写真提供：国立国際医療研究センター消化器科 後藤田卓志
(胃内視鏡写真、大腸内視鏡写真とも)

指導：国際医療福祉大学教授／山王病院外科 丸山 圭一

協賛： 第一三共株式会社

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。